

2010(平成22)年度 事業計画書

認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

INTERNATIONAL CHILDREN'S
ACTION NETWORK

Not "for" the People, but 'with' the People

アイキャン概要

<p>私たちが解決したい課題</p>	<p>現在に至っても、紛争や「貧困」などの暴力に脅かされ、可能性を開花することができない状況に置かれている子どもたちが世界中にいます。特に紛争地の子どもたちやごみ処分場の子どもたち、先住民族の子どもたち、路上の子どもたち、薬物依存の子どもたち、海外出稼ぎ労働者の子どもたちなど「危機的状況に置かれている子どもたち」は、社会の中でも阻害され、享受すべき権利も守られておらず、劣悪な環境に置かれています。</p>	<p>世界の中には、様々な課題に対して、そして平和な社会を創るにあたって、市民一人一人が行動を望んでいても、それを阻む様々な要因があります。人々が、地域に根差して地球規模の課題に取り組むことができるスペースは、依然として限られています。</p>
<p>私たちが目指す理想の社会</p>	<p>子どもたちが紛争や「貧困」などの暴力に脅かされることのない社会</p>	<p>社会問題の解決、理想の社会に向けて、行動する人や団体、地域で溢れる社会</p>
<p>アイキャンの活動目的</p>	<p>「『できること』を実践する人(=アイキャンな人)」を増やし、その一人ひとりの「できること」を持ち寄ることによって、世界中の子どもたちが享受できる平和な社会を築くこと。</p>	
<p>アイキャンの2010年活動</p>	<p>I、「危機的状態にある子どもたちと「ともに」行うプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、ジェネラル・サントスの子どもたち 2、紛争の影響を受けた子どもたち 3、路上の子どもたち 4、先住民族ドゥマガットの子もたち 5、先住民族ブラアンの子もたち 6、外国にルーツを持つ子どもたち 7、ごみ処分場周辺に住む子どもたち 8、災害の影響を受けた子どもたち 9、子どもの参加を促進する事業 	<p>II、「できること(ICAN)」を増やすプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、国際理解教育(開発教育)事業 2、スタディツアー・研修事業 3、フェアトレード販売事業 4、フェアトレード啓発事業
<p>アイキャンの2010年運営体制</p>	<p>運営上の重点 「事業を支える組織体制の強化・安定」</p> <p>1、会員・寄付者・協力者の増加 2、総務部門の強化 3、日本人、フィリピン人スタッフの人材育成</p> <p>組織体制</p> <pre> graph TD GA[総会(会員約500名)] --- BOD[理事会(理事8名)] GA -.-> D[寄付者、協力者、ボランティア] BOD --- IA[内部監査(監事2名)] BOD --- SG[事務局長] SG --- JO[日本事務局] SG --- MO[マニラ事務所] MO --- M1[ミンダナオ第一事務所] MO --- M2[ミンダナオ第二事務所] MO -.-> EA[外部監査] </pre> <p>有給職員30～35名 インターン約6名</p> <p>アイキャン事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、日本事務局：日本愛知県名古屋市 2、マニラ事務所：フィリピン共和国マニラ首都圏ケソン市 3、ミンダナオ第一事務所：フィリピン共和国ミンダナオ島ジェネラル・サントス市 4、ミンダナオ第二事務所：フィリピン共和国ミンダナオ島キダパワン市 	

1、変更点

(1) 現地法人方式から直接経営方式へ

アジア日本相互交流センター(アイキャン)はフィリピンでの事業を、「現地法人」であるI-CAN Foundation Philippines, INCを通じて実施してきましたが、今年度日本のNGOアジア日本相互交流センター(アイキャン)の「フィリピン支店」としての登録に2010年度中に切り替えます。またフィリピンでの登録名称をInternational Children's Action Network(通称、アイキャン)とし、「背景が異なる子どもたちが、自分たちで社会を変えるために行動している」アイキャンの活動を、より直接的に表現します。

今までフィリピンにある事務所には、日本の法人とフィリピンの法人からの2つの意思決定機関がありましたが、この変更により今後は1つとなり、より迅速な対応が可能になるとともに、事務作業の削減が期待されます。

また変更前からフィリピンでの全ての資金取引は、日本の法人に連結されているため、会計上の資産や負債の範囲が変わることはありません。また、事業や職員、事務所もそのまま移行しますので、事実上フィリピンでの登記上の変更となります。

2、運営体制強化点

(1) 日本事務局(愛知県名古屋市)

1) 会員・寄付者とのコミュニケーションの更なる向上

2009年度と同様、会報や会報封筒、電話、対面での会員、寄付者の皆様とのコミュニケーション向上を充実させ、より多くの方に「みんなのアイキャン」を感じていただけるようにします。また、より参加しやすい会員制度、継続寄付制度の確立に努めます。

2) 総務・会計部門の強化

事業数や予算規模の拡大に伴い、事務・会計を含む総務の業務が大幅に増えています。今年は総務部門を強化し、全ての事業を支えています。

3) 各事業担当の専門性の向上

国際理解教育担当やフェアトレード担当、外国にルーツを持つ子ども担当、ハガキ収集活動担当等の日本事務局の事業担当者の専門性を更に磨くべく研修を充実させ、2010年末までに各事業のプロジェクトマネージャーとしての機能を向上させます。

4) ネットワークの向上

NGO、企業、団体、行政、学校、個人とのネットワークを広

げ、アイキャンの活動を充実させていきます。

5) ホームページの充実

ホームページを一新し、アイキャンの活動をより多くの方に知っていただけるように工夫をします。

(2) マニラ事務所(マニラ首都圏ケソン市)

1) 総務部門の強化

事業数や予算規模の拡大に伴い、事務・会計を含む総務の業務が大幅に増えています。今年は総務部門を強化し、全ての事業を支えています。

2) 各事業担当の専門性の向上

日本人、フィリピン人ともに、専門性を磨くことができる環境を確保し、2010年末までにその分野での能力を最大限高めます。

3) 労働条件・環境の向上

給料規定の見直しを含め、労働環境を向上させます。

(3) ミンダナオ第一事務所(ジェネラル・サントス市)

1) 人員の充実

ジェネラル・サントス市での活動が増加する傾向にあるため、活動を担う事業担当者を充実させていきます。

2) 各事業担当の専門性の向上

ミンダナオ第一事務所の既存のスタッフの専門性を向上させる人材育成を行います。

3) 事務所の充実

人員が増加し、現在の事務所での業務が難しくなっていることから、事務所を移転・充実させます。

(4) ミンダナオ第二事務所(キダパワン市)

1) 人員の充実

紛争地ピキットでの活動が増加する傾向にあるため、活動を担う事業担当者を充実させていきます。

2) 各事業担当の専門性の向上

ミンダナオ第一事務所の既存のスタッフの専門性を向上させる人材育成を行います。

3) 事務所の充実

人員が増加し、現在の事務所での業務が難しくなっていることから、事務所を移転・充実させます。

4) 効率的人員配置

ミンダナオ第一事務所のスタッフと第二事務所のスタッフを、活動の進捗状況により、柔軟に、流動的に人員を配置できる体制にします。

I、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなうプログラム

1、ジェネラル・サントスの子どもたち

2010年の注目

- 子どもたちの薬物乱用防止キャンペーンが始まります。

これによって



地域の薬物被害を減少させていく基盤を作ります。

(1) 事業背景

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラル・サントス市は、人口41万人、世帯数9万の地方都市です。ツナやパイナップル等の魚産物・農産物が豊かに収穫できますが、大農場や工場を持つ一握りの資本家への富の集中が顕著で、多くの人びとが最低限の生活状況の中にいます。毎年のように市内で無差別爆破事件が起こり、治安情勢も不安定です。また、ある場所では青少年の8割にまで薬物汚染が広がるなど、その被害も深刻です。アイキャンは、現在までに約150名の通学支援や相互理解を促進する活動を実施しました。今年子どもたちの通学支援を実施するとともに、市内青少年の課題である薬物防止や民族間の相互理解に取り組みます。

(2) 実施体制

ミンダナオ第一事務所(ジェネラル・サントス市)事務所が、教育省や他行政、各学校と協力して実施

(3) 事業のパートナー

ミンダナオ島ジェネラル・サントスの57名の子ども(小学生1名、高校生52名、大学生4名)

(4) 活動

1) 教育支援

通学に必要な制服、学用品、鞆、靴の支給、及び学費、通学交通費、プロジェクト費、卒業経費等を補助します。

2) 緊急支援

子どもが病気や怪我をした場合、また保護者が亡くなった場合の諸費用を提供します。

3) 相互理解促進平和活動

異民族理解研修を通して、相互理解を促進する漫画平和教材を作成・共有し、多民族間の相互理解を促進します。

4) 薬物乱用防止活動

青少年薬物乱用防止の勉強会を開催するとともに、子どもたちの絵画による防止キャンペーンを行います。

5) モニタリング

スタッフによる家庭・学校訪問により、一人ひとりの子どもが抱えている課題の解決に取り組みます。

6) 「子ども集会」(子どもや保護者と事業を振り返り、計画を話し合う場)、「子ども表彰式」(意欲的な子どもを表彰)

2、紛争の影響を受けた子どもたち

2010年の注目

- 引き続き紛争地の校舎建設に力を注ぎます。

これによって



子どもたちが再び教育を受けられる環境をつくれます。

(1) 事業背景

ミンダナオ島北コタバト州ピキット周辺では、長年続いてきた紛争の影響で約60%の住民が住みなれた土地を追われ、学校等社会インフラが荒廃し、人々の生活基盤が崩壊しました。これに加え、2008年の武力衝突では60万人の避難民も発生し、2009年も治安が不安定な状態が続いています。アイキャンは、今年度も引き続き子どもたちが再び学校に通えるように、壊れた校舎の修復や学校設備の充実、そして地域平和活動等の教育事業を実施するとともに、ミンダナオの平和を祈るイベントを実施します。ミンダナオでの活動のみならず、ミンダナオ紛争のことを知ってもらえるように、日本での国内活動を充実させていきます。

(2) 実施体制

フィリピンにおける事業は、ミンダナオ第二事務所(キダパワン市)がピキット市や教育省と協力して実施、日本でのキャンペーンは日本事務局が実施。

(3) 事業のパートナー

ミンダナオ島紛争地の学校、及び子どもたち

(4) 活動

1) 学校建設、及び学校環境整備の向上活動

紛争で破壊された学校や、奥地のために十分な教室がない学校の校舎の建設を行うとともに、学校の教育設備を整えます。

2) 平和教育活動や異文化異宗教間交流活動

子どもたちが紛争の恐怖から解放され、笑顔を取り戻せるように、地域の平和活動を実施します。

3) ミンダナオ島の平和を祈るイベントの開催

政府系援助(JICA)、NGOミンダナオ担当者、研究者とともに、ミンダナオの平和を祈るイベントを開催します。

4) ミンダナオ平和キャンペーンを継続します。

2007年から毎月実施している街頭募金に加え、『『バナナの島』を平和にしよう』キャンペーン！を継続します。

5) モニタリング

教育省や学校と連携し、子どもたちのモニタリングを実施します。

3、路上の子どもたち

2010年の注目

- 事業の人員をさらに増加し、体制を強化します。

これによって



路上の子どもたち300名の生活向上を目指します。

(1) 事業背景

フィリピンでは約25万人の子どもたちが様々な理由で路上での生活を余儀なくされており、多くの子どもたちは路上での物乞いや、物売り、性産業等により生きる糧を得て、命の危険と隣り合わせの生活を送っています。その中には、空腹を満たすためにシンナーを吸引している子どもや、生き残るためにギャングの一員となって罪を犯してしまう子どもたちもいます。アイキャンは、このような路上での苛酷な環境での生活を強いられている子どもたちが一人でも多く愛情あふれる環境で生活し、通学できるように、首都マニラ6ヶ所での路上活動をさらに活性化します。

(2) 実施体制

マニラ事務所が実施。

(3) 事業のパートナー

マニラの路上にいる子ども300名と親50名、「子どもの家」にいる路上生活をしていた子ども8名

(4) 活動

1) 路上カウンセリング

ソーシャルワーカーによるカウンセリングや肉親探し、保護施設紹介を実施します。

2) 教育活動

● 路上教育

子どもの権利教育や路上芸術活動等を実施します。

● 識字等路上基礎教育活動

子どもたちに読み書きや計算等を教えます。

● 通学支援

通学を希望する子どもたちに学用品・制服・学校諸費、課外活動諸費、養育にかかる費用等を支給します。

3) 路上保健医療活動

● 医療活動 医師による診察や治療を実施します。

● 栄養改善活動 栄養価の高い食事を提供します。

● 路上保健活動 プライマリヘルスケアや感染症対策、反薬物教育等の保健教育を実施するとともに、シャワーや衣服の提供を行います。

4) 職業訓練 年長者や親の収入向上活動を行います。

5) ニュースレター(NL)の作成

子どもたちと一緒にパートナーさんへ送るNLを作成します。

4、先住民族ドゥマガットの子どもたち

2010年の注目

- 引き続き、住民組織の能力向上に重点を置きます。

これによって、



住民自身で課題を解決する力を強化します。

(1) 事業背景

リサール州アンティポロ市にあるサンシロ村には、先住民族(ドゥマガット)の血をひく人々が多く住んでいます。人々は主に焼畑や稲作などの農業で生計をたてていますが、雨季になると地理的に孤立してしまうなど、通学が困難な状況に置かれてきました。現在までに、サンシロ村リビス地区のほぼ全ての家庭において通学支援を実施し、農業等の研修、植林、住民の組織化、そしてその住民組織とNGOや行政とのネットワークを構築してきました。この結果、今では村の人が空腹に襲われることもなくなり、また以前は孤立していた村の人たちが、村の「課題」を住民組織を通じて自分たちで解決したり、地方行政とともに解決していけるようになってきました。このような背景から、アイキャンは今年、現在の奨学生の通学を継続的に支援するとともに、住民がアイキャンの存在がなくても課題を自分たちで解決していけるように、2011年4月のアイキャンからの「卒業」を目指して、住民組織の更なる強化を実施します。

(2) 実施体制

マニラ事務所が村の住民組織(MASAKA)や学校と連携して実施。

(3) 事業のパートナー

アンティポロ市サンシロに住む先住民族の子ども2名、農業系住民組織(MASAKA)

(4) 活動

1) 教育支援

子ども達に、必要に応じて学用品・制服・学校諸経費、卒業手続き費用を提供します。

2) 住民組織能力向上研修


農業系住民組織(MASAKA)のリーダーシップ訓練等、更なる組織能力の向上を目指した研修を行います。

3) モニタリング

子どもと保護者、村の人々、教師とのミーティングを、集落や高校、アンティポロ市内にて行うとともに、家庭訪問を随時行います。

5、先住民族ブラアンの子どもたち

2010年の注目

- 村における人と自然環境の調査を実施します。
これによって 
自然環境の再生に向けた活動開始基盤を作ります。

(1) 事業背景

ミンダナオ島ジェネラル・サントス郊外の村に住む先住民族ブラアンは、独自の文化・慣習を持ち、主に畑作や炭焼きなどを生業として、山岳地帯に住んでいる先住民族です。人々は、1970年代以降、深刻化してきた不法伐採や入植者による土地収奪により生活が脅かされており、農耕や採取を基盤とした自給自足の生活が成り立たなくなった今、食にこと欠く家族も多いのが現状です。子どもたちの多くは空腹により通学意欲を失い、せっかく入学しても途中で退学し、卒業まで通学できる子は一握りにすぎません。学校から遠ざかった子どもたちは、親とともに農業に従事したり、村を出て市内中心部で法外な低賃金を稼ぎながら、苦しい家計を助けます。このような状況に対して、アイキャンは引き続き菜園・飼育活動を軸に、ブラアン族の生活向上を目的とする地域開発を行います。

(2) 実施体制

ミンダナオ第一事務所(ジェネラル・サントス市)が学校教員、PTAと協力して実施。

(3) 事業のパートナー

ミンダナオ島ジェネラル・サントス郊外の先住民族ブラアン族の子どもたちが通う5つの小学校と500名の子どもたち、親50名

(4) 活動

1) 学校給食活動

5校500名の栄養不良の子どもに給食を提供します。

2) 学校菜園、飼育活動

5校にて、やぎの飼育や校内菜園等の活動を実施し、給食活動の持続性を高めます。

3) 学校整備活動

5校で教材や学校設備、学用品を充実します。

4) 生計向上活動

ブラアン族の母親50名の収入向上活動の実施。

5) 小学校校舎建設


マリガヤ分校の校舎を建設します。

6) 人と森の関係調査

生物多様性の喪失が与える人々への影響、及びこのミンダナオの村と日本で生活の関係を調査、製本します。

6、外国にルーツを持つ子どもたち

2010年の注目

- 無料翻訳サービスの多言語化を行います。
これによって 
子どもたちの教育環境の向上、及び理解を促進します。

(1) 事業背景

愛知県内の外国人登録者数は東京に次ぐ2位となり、過去最高記録を更新しています。また、それに加え、登録していない、日本国籍を持ちつつも日本以外にルーツを持つ子どもたちはその何倍とも言われています。外国にルーツを持つ子どもたちの多くは、小学校高学年から中学校にかけて本人の日本語力と学業上必要な日本語力の間に顕著な差ができれば、これが「学力」として現れます。この結果、子どもたちの中には進学を諦めざるを得ず、複合結果として、母親を見下し、責めることにより家庭の崩壊が起こったり、子どものアイデンティティ障がいが発生させるケースも多くあります。

アイキャンは日本と海外の教育の知識と経験を活かし、愛知県を中心とする日本にいる外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境を向上させることによって、子どもたちが力をつけ、また周囲の理解を受けられるように活動します。

(2) 実施体制

日本事務局が学校や自治体、翻訳ボランティアと協力して実施。

(3) 事業のパートナー

愛知県を中心とする日本に住む外国にルーツを持つ子どもたち

(4) 活動

1) 調査や提言、啓発活動

外国にルーツを持つ子どもたちが置かれている状況を調査・製本し、政策への提言や啓発活動を行います。

2) 教育支援活動

学校が保護者宛に発行するプリントや地域の回覧板等を、全国のアイキャン翻訳ボランティアが多言語で翻訳することで、外国にルーツを持つ子どもたちの親が、子どもの教育に携われるようになります。これにより、子どもたちが勉強に集中できる体制を築きます。

3) 無料通訳業務

日本語が不自由な方が、日本で不自由なく過ごせるように、ボランティアによる無料通訳業務の可能性を探ります。

7、ごみ処分場周辺に住む子どもたち

2010年の注目

- 既存の活動大部分が住民によって運営されます。

これによって、



地域の人々が健康を取り戻す基盤が完成します。

(1) 事業背景

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があり、周辺には約1万人が生活しています。ごみ処分場でリサイクルできる資源を回収し販売することで生計をたてようとしている人が約3000人いますが、その収入は法定最低賃金の1/3程度しかなく、必要最低限の暮らしを保つのも困難な状態です。また、劣悪な生活環境によって、住民は様々な健康被害を受けていますが、適切な治療へのアクセスが限られています。このような背景から、アイキャンは処分場に近いケアセンターを拠点として、医療と生計向上の事業を実施します。

(2) 実施体制

JICAの草の根パートナー事業として、事業で生まれた住民の協同組合とマニラ事務所が事業実施。

(3) 事業のパートナー

パヤタスB第2地区を中心に、ごみ処分場周辺に住む約5000名の人々

(4) 活動

1) 保健・医療活動

- ① 定期診療（毎週火・土）
- ② 妊産婦検診（月2回）
- ③ 地区巡回診療（月1回）

コミュニティを巡回し、乳幼児や妊婦へジフテリア、BCG、肝炎、はしか、破傷風などの予防接種を行うとともに、簡易診察や、モニタリングを行います。

- ④ 結核対策DOTS（直接監視下短期化学療法）

地域に根ざした確実な結核治療を実施します。

- ⑤ 外部診療補助（随時）

高度な治療を必要とする患者に、検査費や交通費、医薬品経費の補助、通院付き添い等のサービスを提供します。

- ⑥ コミュニティヘルスポランテア(CHV)の医療費補助
ボランティアで医療活動を担う住民を対象に、疾患・傷害時に医療費や交通費を補助し、また疾患予防のために胸部レントゲン検査経費などを負担します。

⑦ 特別医療活動

寄生虫駆除、子宮がん検診、集団体重測定などの集団医療活動を行います。

⑧ 保健教育

診察に来ている患者、青少年教育活動の子どもたち、栄養改善活動に参加する母親たち、また結核患者やその家族たちなどを対象に保健教育を行います。

⑨ コミュニティヘルスポランテア(CHV)・トレーニング

ボランティアで医療活動を担う住民を対象として、救急や保健、栄養、病気に関する知識と技術を高めるトレーニングを行います。

⑩ 預かり保育（月～金）

小学校に入る前の子どもたちの預かり保育を行い、子どもの教育ニーズに応えるとともに、親の組織化を進めます。

⑪ ネットワーキング

事業地内外の様々な公的機関やNGOとのネットワークを広げます。

3) 協同組合強化

今年は、4月から協同組合がアイキャンに変わって事業を行うようになり、10月からは完全に主体が移行します。この主体移行により、活動のみなならず、財源確保や予算管理等もすべて住民が主体の事業となります。

4) 生計向上活動


住民のニーズに応じて、技術訓練を実施し、また外部の技術訓練の参加を補助します。訓練後の起業を支援し、確実な生計向上を目指します。

5) 青少年活動と組織化

毎週土曜日およそ80名の子どもたちに遊びと学びのスペースを提供する活動を継続します。また年長の子どもたちの組織化をすすめ、技術訓練をはじめとしたトレーニングも実施します。

8、災害の影響を受けた子どもたち

2010年の注目

- 被災者の復興活動を再定住地先で継続して行います。
これによって 
被災者が生活を立て直す基盤を作ります。

(1) 事業背景

フィリピンは世界の中でも有数の災害被害国です。災害時には社会的弱者がもっともその影響を受け、特に子どもや高齢者が命を落とし、低所得層が生計を失ってしまいます。これに対し、フィリピンで活動する日本のNGOの中で、最大規模の人員と3つの事務所を持つアイキャンは、既存のフィリピンのNGOや行政との関係を最大限活かし、いち早く被災地のニーズに応える緊急支援と中長期的視点に立った復興活動を行います。

特に2009年は、9月末に台風オンダイによる連日の大雨のために、マニラ首都圏とその周辺地域で大洪水が発生したことを受け、2010年は引き続き被災者の復興の活動を行っていくとともに、今後も災害に対して迅速な対応ができるように、基盤の整備とネットワークを強化していきます。

(2) 実施体制

マニラ事務所がパートナーNGOと協働で事業実施。

(3) 事業のパートナー

2009年マニラ台風災害被災者の子どもと大人

(4) 活動

1) 復興活動

2009年9月末の台風で家を失った70家族が再定住地先で安定して生活ができるように、生計向上や教育支援、住居の整備等を含め、被災者のニーズに沿った復興活動を行っていきます。

2) 緊急出動体制の構築

災害発生直後に迅速に活動を開始できるよう、衣料品や医薬品、教育物資等の備蓄を増やします。同時に、災害発生時の対応のマニュアル化を進めていきます。

3) ネットワーキング

日本、及びフィリピンでのNGO、行政機関とのネットワークを拡大し、効率よく活動ができる体制を構築します。

9、子どもの参加を促進する事業

2010年の注目

- 今年も「子ども議会」を開催します。
これによって、 
子どもたちが自分たちで生活を改善していきます。

(1) 事業背景

アイキャンは約15年間フィリピンにおいて子どもたちの保健や教育、そして親たちの収入を増やす活動を行ってきました。その中で、なぜ子どもたちが現在も危機的な状態に置かれているのかと考えたとき、社会に欠如しているのは、「子どもたちの声」であると考えようになりました。子どもたちは夢をみる力も、夢をかなえる力も持っています。様々な課題を自分たちで解決していく力も持っています。この事業が目指すものは、まず「危機的状況にある子どもたち」自身が自分たちの置かれている現状を声に出し、他の境遇にある子どもたちと共有すること。そして、自らの活動計画をつくり、子どもたち自身が社会を変えていく活動を応援します。

(2) 実施体制

フィリピンの様々なNGO、行政等と連携して、マニラ事務所が事業実施。

(3) 事業のパートナー

路上の子どもたち、紛争地の子どもたち、先住民族の子どもたち、身体的障がいを持った子どもたち、親が海外出稼ぎ労働者の子どもたち等「危機的状況にある子どもたち」

(4) 活動

1) ノンフォーマル教育

フィリピン各地で、「危機的状況にある子どもたち」が、自分のコミュニティの「理想」と「課題」を出し合います。

2) 子ども議会主催

「危機的状況にある子どもたち」の代表者がマニラに集合し、ノンフォーマル教育で出た「理想」と「課題」を共有するとともに、行動計画(「子ども宣言」)をつくります。子どもたちは、自分たちの計画に基づいて、「子ども議会」終了後、それぞれのコミュニティで自分たちの課題を解決するために取り組んでいきます。

3) フィリピン国レベルの子どもの参加促進

NGO、政府機関、国連機関と連携し、フィリピンの国レベルで「子どもの参加」を促進します。

Ⅱ、「できること」を増やすプログラム

1、国際理解教育(開発教育)事業

2010年の注目

- 日本の少年・少女のグループ化を行います。

これによって、



社会の課題解決に行動する子どもを増やしていきます。

(1) 事業背景

幅広い事業を行うアイキャンの特性を活かし、日本に住む人々とフィリピンに住む人々の経験をお互いに共有することによって、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に基づいて社会問題を理解し、「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人材を育成します。また、今年は書き損じハガキの募集や募金活動、ボランティアのグループ化を行い、主体的な「行動」を活性化させていきます。

(2) 実施体制

日本事務局が全体の管理を行い、海外研修はマニラ事務所が実施。

(3) 事業のパートナー

一般市民5,000人

(4) 活動

1) 学校での授業・講義

フィリピン各地の事業地の経験をもとに、小学校から大学で参加型ワークショップ形式の授業をおこなうとともに、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。今年は、企業との連携を強化し、地域での人材育成に力を注ぎます。

2) 開発教育講座やイベント等実施、参加

フィリピン各地の事業地の経験をもとに、自主イベント企画、実施するとともに、他団体主催のイベントに参加し、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。

3) 事務所訪問受け入れ

小中高生の課外学習や大学生・一般の方の訪問を受入れ、事務所にて活動紹介を実施するとともに、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。

4) 愛知県内中学生の国際理解及び活動の活性化

愛知県内中学生とフィリピンの子どもたちとの交流を促進し、中学生とフィリピンの子どもたちがともに「理想の地球」を作りあげる活動を行います。今年の絵手紙交流では「環境」をテーマにするとともに、中学生の組織化に力を注ぎます。

5) 文房具寄付による交流

未使用文房具の寄付と子どもへのメッセージを募り、フィリピンに届けることで両国の交流をはかります。

2、スタディツアー：研修事業

2010年の注目

- スタディツアーを実施します。

これによって、



フィリピンの子どもたちとの交流を加速します。

(1) 事業背景

現在、世界では南の国と北の国との間に大きな経済格差があり、その解決に多くの国や諸機関が取り組んでいます。その格差は広がる一方で、より多くの人々による解決に向けてのコミットメントが求められています。アイキャンでは、フィリピンの現状から、困窮の中にある人々の苦闘を日本の人々に伝え、同時にアイキャンの活動を広く知ってもらい、また開発に関心のある人々に学びの場を提供し、ともによりよい社会作りを担う人材を育成することを目的として、社会開発研修やスタディツアーを行い、事業地の益と、参加者の益と、アイキャン事業の益とを満たすことのできる3者がWIN-WIN-WINとなるプログラム内容を提供しています。

今年は、フィリピンの社会開発事業地、そしてマニラの都市コミュニティにおいて、交流と相互理解促進を目的としたICANスタディツアーを実施します。

(2) 実施体制

現地法人 I-CAN Foundation Philippines, INC が主催、日本事務局やパートナーNGOと協力して事業実施。

(3) 事業のパートナー

一般市民40人

(4) 活動

1) ICANスタディツアー

アイキャンの事業地の住民や子どもたちとの交流を通して、相互理解を促進するツアーです。3月に2回、8・9月に3回を予定しています。

2) 帰国後の報告会

参加者による報告会を開催し、帰国後の参加者同士のつながりを強化するとともに、参加者以外の方にも、参加者の声からアイキャンの活動やそこに住む人々について理解を深めていただく機会を作ります。

3、フェアトレード販売事業

2010年の注目

- 生産者、購入者ともにネットワークをさらに拡大します。

これによって、



アイキャンフェアトレードの販売を強化します。

(1) 事業背景

アイキャンのパヤタスごみ処分場での生計向上事業から2005年に独立した女性フェアトレード団体(SPNP:パヤタスの生計向上のためにがんばる母親達)をはじめとする生産者団体の運営を支え、生産者のエンパワメントと収入向上を目的として、実施します。今年は、既存の生産者やフェアトレードショップとのネットワークをさらに強化し、多様な生産者団体の生計向上に努めます。またインターネットでの販売を強化していきます。

(2) 実施体制

日本事務局、マニラ事務所がSPNP、ボランティア、他機関・団体、全国フェアトレードショップの協力を得て事業実施。

(3) 事業のパートナー

フィリピンの生産者団体、及び日本の一般市民

(4) 活動

1) SPNPの団体運営支援

SPNPの団体運営をアドバイザー役として支えています。

2) SPNPや他のフェアトレード製品の開発と仕入れ

購買層のニーズの把握等、SPNPの新商品の開発に協力します。SPNPや他団体のフェアトレード製品の仕入れを行い、生産者の収入向上を目指します。

3) 販売

日本とフィリピンでイベントや学校祭、事務所、ホームページ、またフェアトレードショップ等を通じて販売します。特に今年は、フェアトレード販売専用HPを作り、インターネットを通じての販売を強化するとともに、他のフェアトレード団体を通じた商品の仕入れ・販売にも力を入れていきます。

4) 啓蒙活動

① フェアトレードイベントの開催

② 販売時の啓蒙

フェアトレード製品を通して、生産者の置かれた環境と自分が置かれた環境を比べ、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に基づいて、社会問題を理解し、「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人材を育成します。

4、フェアトレード啓蒙事業

2010年の注目

- 学生との協働に力を注いでいきます。

これによって、



東海地域のフェアトレードを活性化します。

(1) 事業背景

「お買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード(公正な貿易)運動の広がりは、日本全体では盛り上がりを見せつつも、東海地域においては依然として限られています。その為、市民は世界中から届いた商品に囲まれて生活を送りつつも、「南」の生産者の声は届かず、「南」「北」の経済格差が固定化されてしまっています。このような状態に個別に対応するのは限界があり、地域のフェアトレード関係者や有志が一丸となって、東海地域のフェアトレードを取り巻く環境を変えていく必要があります。

(2) 実施体制

日本事務局がボランティア、他機関・団体、全国フェアトレードショップの協力を得て事業実施。

(3) 事業のパートナー

東海地域のフェアトレード関係者

(4) 活動

1) 東海フェアトレードフォーラムの開催

東海地域のフェアトレード関係者70名が一堂に集い、地域のフェアトレード活性化を行うフォーラムを開催します。

2) 東海フェアトレードポータルサイト作成

東海地域のフェアトレードのポータルサイトを作成します。

3) 東海フェアトレードマップの作成

地図の作成により、フェアトレードに関心のある人たちに、地域のフェアトレードショップに足を運んでもらえるように促します。

■ その他の活動に係る事業

リサイクルバザー等

(1) 事業背景

リサイクルバザーの実施

(2) 実施体制

日本事務局

(3) 事業のパートナー

日本の一般市民

(4) 活動

リサイクルバザーの実施

